

打倒詐欺師！ 振り込め詐欺撲滅大作戦

急増する振り込め詐欺に対して、海老名警察署ではさまざまな取り組みを行っています。



1 「海老名警察署です」という電話に、まずは合言葉を「合言葉作戦」

海老名警察署をかたる人物から連絡があった場合、「合言葉は？」と尋ねてみましょう。その後海老名警察署に直接電話(☎232・0110)で合言葉を確認します。合言葉が異なる場合は、振り込め詐欺の犯人からの電話とみなし、この一連の取り組みから一歩前で食い止めようという作戦です。

2 地道にコツコツと「シール作戦」

あらかじめ受話器に貼っておくことで、電話がかかってきた時に注意喚起を促すシール。海老名警察署生活安全課などで配布しています。



3 警察官OBにも呼び掛け「だまされたふりネットワーク結成」

犯人検挙に結びつけるために警察署と協力し、犯人からの電話に引っかかったふりをしてもらう役目を担う方のネットワークづくりをしています。しかしこの作戦を逆手にとった詐欺も横行しているのです、まずは管内にいる約200人の警察官OBを中心に協力を呼び掛けています。

4 不審な若者が乗ったら通報！「タクシー会社連携作戦」

カードなどを直接受け取りにくる「受け子」は、足が付かないようにタクシーを使います。不似合いなスーツを着て住宅街まで乗り付け、用事が済むまでその場でタクシーを待たせるような若者を乗せた場合は、警察署に通報するよう市内全てのタクシー会社と連携しています。

5 高齢者が高額な金額を引き出したら通報！「金融機関の全件通報作戦」

高齢者が一定の高額な金額を引き出す場合は、全て金融機関から通報してもらう取り組みです。通報後、速やかに警察官が金融機関に駆け付け、高齢者から事情を聞くなどの確認をします。



「一番危険なのは「私は大丈夫」と思っている人」



海老名警察署 米川僚一署長

振り込め詐欺の被害が依然増え続け、その手口が年々巧妙化していることはほとんどの方がご存じだと思います。それにもかかわらず、非常に多くの方がだまされる。ATMに「還付金は受け取れませぬ！」と貼り紙がしてあるのに振り込んでしまう。年々巧妙化する手口に知識が追いつかないんですね。相手は詐欺師です。「私は絶

「だまます電話がかかってくる」が冷静な対応につながる

対大丈夫」という根拠のない自信が一番危険。そういう人ほど詐欺師の巧みな心理戦術に引っかかっているのが実情です。

海老名市の被害の半分以上が「劇場型」

今は振り込め詐欺の主流が「振り込み」から「受け取り」へ変わってきています。その中でも多いのは「劇場型」。昨年、海老名署管内で起こった被害の半数はこの「劇場型」でした。デパート店員・警察官・銀行協会職員などを装う犯行グループが電話で「キャッシュカードが悪用されている」と不安をおおってカードの再発行を促します。臨場感のある電話が次々から次へとかかってくるので相手のペースに引き込まれ、最終的にはカードを渡してしまう。「あれ？」と思った時には詐欺師から現金を引き出されています。被害者が金

融機関に向く必要がないため、犯行に要する時間が極めて短く、第三者による声掛けも難しい詐欺です。

高齢の女性はターゲットになりやすい

県内・市内ともに被害者の約80%が60歳以上の女性です。男性に比べて在宅率が高く、息子などの家族を装った電話に耳を傾けやすいことなどの要因が考えられます。

ポイントは固定電話の留守番電話設定

海老名警察署でも悪質化する詐欺に対し、体制を整えています。やはり最後に身を守るのは自分自身です。ポイントは固定電話。基本的に詐欺師は固定電話に電話をかけてきます。そして、被害者に考える隙を与えないよう「警察です」「銀行協会です」と矢継ぎ早にだましにかかる。一番の対策は「在宅中も留守番電話に設定すること。これでは詐欺師は交渉ができません。すぐに電話に出ないで、留守番電話に切り替わるまでひと呼吸置きましょう。また、不意の電話は冷静さを欠くことがあります。平日頃から「私は大丈夫」では

なく、「私をだます電話が必ずかかってくる」と思っていれば、冷静な対応ができるでしょう。

間違いでも大丈夫 まずは一報を

昨年、千葉県を中心に振り込め詐欺を繰り返していた詐欺師を海老名市内のコンビニで逮捕しました。これは不審な若者がいると市民の方からの通報で逮捕につながった一例です。市民の皆さんからの不審者情報はとても大事です。間違いでも構いませんので、何かありましたらお気軽に警察署まで情報をお寄せください。被害の防止、犯人の検挙にご協力をお願いします。



お気軽に海老名警察署へ相談を